



ゲルゴウを手伝う子どもら。高松市サンポートのeーとびあ・かがわで

「モンゴル」学ぼう 小中学生35人参加

高松でワークショップ

子どもたちがモンゴルのことを学ぶワークショップが21日、高松市サンポートのシンボルタワー内の情報通信交流館「eーとびあ・かがわ」で開かれた。小中学生計35人が、遊牧民族の家「ゲ

ル」づくりや同国の言葉

を学んだ。同館が夏休みの子どもたちに国際交流の場を提

供しようと、東京で子どもワークショップ開催を手がけるNPOの協力を得て企画した。モンゴルとの国際理解がテーマで、この日はゲルゴウ

に挑戦。テントの骨組みのように木を組んでいくのを、子どもたちも手伝った。

また、作業の合間に言語や文化も学び、NPO

の職員から「モンゴルの名前には姓がないため、必要な時は父親の名前を使うんだよ」などと教えてもらっていた。

参加した子どもたちは27、28両日、テレビ電話を使ってモンゴルの子どもと交流する。